

北日本新聞納涼花火・富山会場 清掃ボランティア協力参加

日時：2006年8月2日(水) 5:00~6:00
場所：神通川右岸 神通川緑地公園周辺



8月2日早朝、昨年同様、北日本新聞納涼花火大会清掃活動に参加した。ライオンズクラブ、様々な地区団体、小学校等が参加、約500名が清掃活動に参加した。当ライオンズクラブからは26名の参加。

朝の空気はとてすがすがしく、日中の暑い日差しを忘れさせてくれたアクティビティであった。

ゴミ拾いで奉仕！運動不足解消！仕事の能率UP！などなど、早起きは三文の徳、今年もタオルと飲み物をGET！神通川河川敷だけではなく、自身の心もすっきりとキレイになった早朝であった。お疲れ様でした。

第二回ふるさと富山美化大作戦 清掃活動参加

日時：2006年8月20日(日) 7:15~8:15
場所：富山市庁舎 光の広場(市庁舎松川側)



第二回ふるさと富山美化大作戦が市内85ヶ所で行われ、参加人数はなんと約57,000人(昨年35,000人)。当LCは16名参加。松川周辺の清掃に汗を流した。各会場の清掃活動で合計約58t(昨年17t)の可燃・不燃物のゴミ

が収集されたとの結果。昨年を大きく上回る参加人数とゴミの量。参加人数増については、市民の美化への意識が向上しているなどと思えるが、一方、ゴミの量が3倍近くにもなっているのには他に理由があるのでは？と思われた結果ではなかったか？？当LCの清掃区域である松川周辺に関しては、3倍どころか、殆どゴミの無いキレイな状態で2時間の予定を1時間早く切り上げる結果となった。

「ゆうと君のアンケート」 L. 姫野 公英

鈴木ゆうと君は私の町内に住んでいる小学三年生である。彼と知り合いになったのは丁度一年前、私が夏休みのラジオ体操に出かける様になった事が切っ掛けである。私の住んでいる住宅団地は、子供達が多く、賑やかな彼等と一緒に年寄りの私も運動不足を補おうと目論んだのである。

と或る日、ゆうと君が母親に伴われて私の家にやって来た。夏休みの自由研究のテーマとして「ラジオ体操の歴史」を選んだので協力して欲しいというものであり、以来一緒に勉強した仲である。

そのゆうと君が今年は独りで訪ねて来た。「生き物の生命について」というテーマで勉強したいので、アンケートに答えて下さいというものであった。問いは属性に関するものを除けば主たるものは二つであり、一つは「生き物の生命について、どの様に考えますか。」という事と、もう一つは、前問に関連して、「昔と違って生き物を良く知らない僕達にアドバイスして下さい。」というものであった。

これを見て、私には、はっと思い当たる事があった。実はこのアンケートを受け取る二、三日前、いつも通り、朝のラジオ体操に出掛けようと公園に向かう道すがら、尾長が子雀を襲うという現場を彼等と共に目撃していたからである。尾長は、我々に遭遇した為、獲物をそのままにして逃げ去ったが、襲われた子雀は助からなかった。弱々しげに体を痙攣させる子雀を前にして、子供達は尾長の非道さを詰ったが、私は「尾長も自分の子供達を育てなくてはならないからね！」と言いつつ、亡骸を葬ったのである。

「あれが切っ掛けだ！」と納得したものの容易ならぬテーマであり、私にもまったく自信は無かったが、事件の当事者として、又、大人の一人として逃げる訳にはいかないと考えたのである。以下はその問い掛けに対する私の拙い答えの全文である。

1. 生命という意味では、動物であれ、植物であれ、総ての生命は平等であり、同じ様に尊い物だと思っています。しかしながら、我々動物は、自らの生命を維持する為には、他の別の生命を食物という形で殺さなければならないという宿命を

〜投稿エッセイです〜



負っています。この事を「食物連鎖」といいますが、その連鎖の頂点に立っている人間は、くれぐれも自分達だけが何か特別の生命であるかのような、傲慢さを持つてはならないと思っています。つまり、遊びやいたずらで動物の生命を奪うことは厳に慎まねばならないと思っています。

2. 私達が住んでいる、この婦中町には、まだまだ近所に沢山の自然が残っています。出来るだけ沢山の自然に親しみ、自然を観察する事により、自然界の厳しい法則を納得してもらいたいと思っています。

理解して貰ったとは、全く考えていないが私は彼がこのような問いを発してくれた事が無性に嬉しかった。というのは、最近の世相を賑わす、「児童殺傷事件」や、「少子化問題」等も、都会化のもたらす弊害の最たるものであり、生命の再発見無くしては解決策は無いと常々感じていたからである。

小さな頃から魚や小鳥に触れ、心ならずもそれらを死なせた経験を持つ子供達が、例え喧嘩をしても、同じ友達を刺し殺すだろうか。

又、自然界をちょっとでも観察した者なら草木は何故花を付け、実を結ぶか、犬、猫、鳥、魚、虫は何の目的で生きているかと問われれば、何の躊躇も無く、「生命を繋ぐため」と答えるのではないだろうか。人間も又例外では有り得ない。この地球にアメーバのような最初の生命が誕生してから、大凡三十億年という。さすれば、現在生きている私達も含めて総ての生き物は、三十億年もの間、一瞬の途切れもなく生命を繋いできたのである。たかが二、三十年間生きただけで、生命を我が物と考えるなどとは、僭越も甚だしいと思うからである。

後日、ゆうと君は、研究成果を携えて我が家に説明にやって来た。ページをめくるとそこには、『「食物連鎖」について勉強したよ!』という彼の絵文字が踊っていた。

ちなみに、ゆうと君は三人兄妹の長男だが彼のお母さんは、現在四人目を出産の為、実家に帰省中との事であった。